

# H27 三方原中学校 学力向上プラン

**P(計)**

**D(実)**

**C(評)**

**A(改)**

説明責任

## 自己評価

### 【生徒の学力状況】

項目	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
先生は、勉強がよく分かるように教えてくれる。	32%	55%	10%	3%
先生は、「やってみたい」と思うような授業をしてくれる。	28%	54%	16%	3%
勉強が分からない時には、先生が手助けをしてくれる。	37%	47%	13%	3%
私は、毎日欠かさず家庭学習に取り組んでいる。(1時間以上)	79%	21%	—	—
私は、1年間に10冊以上の本を読んでいる。	32%	68%	—	—

### 【達成目標】

- 基礎・基本を身に付け活用する生徒

### 【学力向上に向けての取り組み】

#### 確かな学力を身に付けさせる指導

- 1、基礎・基本の定着を図るための指導の工夫
- 2、分かる授業、学びの楽しさを感じる授業の工夫
- 3、互いに助け合い学び合う場の設定等の工夫
  - 1～3に取り組むために
    - ・研究授業。授業参観をより充実させる。年一人1回以上の研究授業を通して、所属学年の授業だけでなく、他学年の授業、同じ教科の授業も参観できるようにし、教員の指導力の向上を図る。
- 4、コミュニケーション能力(言語活動)育成の工夫
  - ・学習指導案は、コミュニケーション能力(言語活動)の育成を目指した学習活動が、より具体的に表す。
- 5、家庭学習の習慣化を図る工夫
  - ・家庭で行わせる補助教材の活用と指導
  - ・校内学力診断調査前の学習の推進

### 【H27全国学力・学習状況調査の結果から評価】

- 研究推進委員会で調査結果を分析し、学校としての課題把握と教育課程編成に生かす。
- ほとんどの項目において、全国平均を上回っている。
- 数学A、Bにおいて、図形や資料の活用が、県平均を下回っている。反面、関数については、上回っている。

### 【H27浜松新学力調査の結果から評価】

- 教科部会で分析し、学習指導に生かす。
- 学習の中で定着させたい力を明確にするとともに、自らの指導の在り方を振り返り、授業改善に生かす。
- 多くの設問において、知識や思考力の定着が見られた。特に、説明する設問については向上が見られた。

### 【改善策】

- 国語科だけでなく、すべての教科で読解力を大切にしたい授業を展開した成果と思われる。
- 資料の活用等、分析する力を身に付けさせるよう、数学科にとどまらず、すべての教科において、文章から必要事項を抜き出す、条件と照らし合わせて書き出す作業に取り組ませたい。

### 【改善策】

- 現在の指導を継続し、さらに基礎基本の定着や言語能力の向上を目指す。
- 言語活用力を身につけるよう言語活動の充実を図る。

## 学校関係者評価

保護者を対象に、「学校では、基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業をしている。」という調査を行ったところ、そう思う、大体そう思うという回答が75%であった。また、「学校は、家庭学習に毎日取り組めるように支援をしている。」という調査では、あまり思わない、思わないという回答が30%あった。

## 改善策

- 地域や保護者からの高い評価をいただいている。しかし、これらの結果に甘んじることなく研修を重ね、さらなる向上を目指す。
- 家庭学習の状況については、生徒及び教師の受け止めに比べ、保護者の受け止めが低い傾向があった。三者面談や家庭訪問等を利用し相互理解を深めるとともに、目に見える形で学力の向上が感じられるよう、工夫をしていきたい。

# H27 三方原中学校 生徒指導力向上プラン

**P(計)**

**D(実)**

**C(評)**

**A(改)**

説明責任

## 自己評価

### 【生徒の状況】

項目	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
私は、さわやかなあいさつができています。	57%	34%	6%	3%
私のクラスは楽しく、教室は安心できる場所である	45%	39%	11%	5%
私は学校行事において互いの良さを認め励まし合う活動ができています。	43%	43%	11%	3%
学習や生活等について、学校の先生に相談しやすい。	24%	41%	23%	12%

### 【達成目標】

- 人との関わりを通して育つ生徒

### 【生徒指導力向上に向けての取り組み】

誰もが安心して、自信と誇りがもてる学校づくり

- さわやかなあいさつの実践
  - ・正門でのあいさつ運動。
- 朝読書等を通して読書の習慣化を図る。
- ボランティア活動への積極的参加や常時活動の充実
- ルールやマナーの指導の徹底(はままつマナーの活用)
  - ・道徳で「はままつマナー」を利用する。
- いじめ、非行、問題行動を減らす指導(未然防止、自己肯定感・自尊感情の醸成)
  - ・学校行事を通して、成功体験を共有する。
- 学年・学級経営(学年・学級の耕し)の充実、工夫

### 【H27全国学力・学習状況調査の結果から評価】

- 研究推進委員会で調査結果を分析し、学校としての課題把握と教育課程編成に生かす。
- アンケート結果から、携帯電話の利用時間が平均を上回っていることがわかった。
- 自尊感情は、平均的であると考えられる。

### 【翼翔アンケート(生活アンケート)の結果から評価】

- 生活部会で分析し、生徒指導に生かす。
- 「いじめ」に関する訴えは昨年度とほぼ同数の訴えがあった。
- 生徒からの情報が多く寄せられるため、発見が早く適切な指導へとつなげることができた。

### 【改善策】

- 小学校と連携して、児童、生徒、保護者に向けた携帯電話利用についての知識の定着を図る。
- 三者面談や日頃の声かけを通して、生徒個々の状態を把握するよう努める。

### 【改善策】

- 現在の指導を継続し、さらに迅速な対応を心がける。
- いじめに関しては、生徒からの情報の増加により初期段階での対応が可能になった。しかし、「いじめ0」を目指し、よりきめ細やかな指導体制や相談できる関係づくりを進めていきたい。

## 学校関係者評価

保護者を対象に、「学校は、いじめのない学校、学級、集団づくりに取り組んでいる」という調査を行ったところ、そう思う、大体そう思うという回答が 86%であった。しかし、あまり思わない、思わないという回答が 13%あり、昨年度と比較すると 5 ポイント減少しているが、今後も改善が必要である。

## 改善策

- 地域や保護者からの高い評価をいただいている。しかし、これらの結果に甘んじることなく研修を重ね、さらなる向上を目指す。
- いじめについては、アンケートや日頃の観察を通して早期発見に努める。また、いじめが解消したように見えても、引き続き生徒が安心して生活できるよう、継続した指導や保護者への説明が大切であると考えている。

# H27 三方原中学校 健康・安全向上プラン

**P(計)**

**D(実)**

**C(評)**

**A(改)**

説明責任

## 自己評価

### 【生徒の状況】

項目	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
先生は、がんばっていることをほめてくれたり、困ったときに助けてくれたりする。	38%	45%	13%	4%
私は目標をもって意欲的に部活動に取り組んでいる。	61%	28%	8%	3%
私は健康に留意し欠席やけがをしないように努力している。	51%	37%	8%	4%

### 【達成目標】

○命を大切にする生徒の育成

### 【健康・安全向上に向けての取り組み】

生き方・志に迫る指導

- 生徒一人ひとりに夢や志をもたせる工夫
  - ・1年:地域体験学習 2年:職場体験学習 3年:福祉体験学習
- 目標をもち、部活動へ積極的に参加する工夫
  - ・部活動優先の日の設定 ・発達段階に応じた適切な指導 ・パーンアウトへの留意
- 心と体の健康管理等の指導の工夫
  - ・支援室の充実 ・アンケート結果の共有
- 道徳授業の充実と35時間完全実施
  - ・モラルスキルトレーニングや構成的エンカウターの導入

### 【H27全国学力・学習状況調査の結果から評価】

●研究推進委員会で調査結果を分析し、学校としての課題把握と教育課程編成に生かす。  
○アンケート結果から、睡眠時間のばらつきが顕著であることがわかった。

### 【翼翔アンケート(生活アンケート)の結果から評価】

●生活部会で分析し、生徒指導に生かす。  
○友人関係の悩みを訴える生徒が目立つ。また、携帯電話でのトラブルは減少傾向が見られた。

### 【改善策】

○朝、帰りの会や学級活動等、正しい睡眠と学力の関係等を指導する。  
○保健だよりなど三者面談等をとおして、保護者への理解と協力を得る。

### 【改善策】

○現在の指導を継続し、さらに迅速な対応を心がける。  
○携帯電話の使用については、引き続き保護者会、保健だより、三者面談などを利用して、保護者との連携を図る。

## 学校関係者評価

保護者を対象に、「学校は目標をもって意欲的に部活動に取り組めるよう指導している」という項目について調査を行ったところ、そう思う、大体そう思うという回答が91%であった。また、学校評議員から「昨年度に比べ、上位の大会への進出が目立ってきた。今後のさらなる活躍を期待している」との言葉をいただいた。

## 改善策

○昨年に引き続き、地域や保護者からの高い評価をいただいている。しかし、これらの結果に甘んじることなく研修を重ね、さらなる向上を目指す。  
○生徒の相談相手として、「学校の先生」はなかなか上位にはなりにくい。しかし、アンケートや生活記録(日記)をとおして情報の収集に努めていきたい。また、日常の会話において積極的な支援を心掛けていきたい。